



Future
From
Fukushima.

ふくしまからありがとう

復興しタ

ふっこうれたー

第6号

平成29年3月

ふくしまから
はじめよう。

「今日の努力は 笑顔あふれる農空間 復興のために」

春の便りが北上する季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。震災から6年が経過し、毎年発行の「復興しタ」も第6号となりました。平成28年は福島県葛尾村(H28.6)、川内村(H28.6)、南相馬市(H28.7)において帰還困難区域を除き避難指示が解除され、今後、飯館村、川俣町、浪江町(H29.3)、富岡町(H29.4)でも、帰還困難区域を除き避難指示の解除が予定されるなど、ふるさとへの帰還に向けた動きも進んでおります。また、県内の除染も実施予定面積の約9割が完了しております。更に、震災で決壊した須賀川市の農業用ダム「藤沼湖」では本体復旧工事が完了し、試験湛水が開始(H29.1)されるなど、本県の復興が形として見えるなど、復興が形として見えることで将来に明るい光が差し始めていると実感しております。



平成29年春には、藤沼湖から農業用水の供給が再開されます。今後も農業に携わる人々が再び笑顔とやりがいを持って農業を営む事ができるよう、まだまだ長期戦となる復興に誠心誠意取組んでまいりたいと覚悟であります。福島県農村振興技術連盟では、ご縁あって当県支援に赴いて頂いた方々との絆を持ち続けたいこと、全国の皆様に被災地の様子や声を、年1回ではありますが今後もお伝えしてまいります。

福島県農村振興技術連盟委員長 須田 博行
(福島県農林水産部次長(農村整備担当))

福耕支援隊の皆さん 集合!!



福耕支援隊 大分県チームにインタビュー

今回紹介させていただくのは大分県 野上康則主任主査と彌田雄太技師のお二人です。

野上さんは、(H26.4~9月)今回2度目の支援で、南相馬市の県営災害 原町南部地区を担当していただいております。彌田さんは、復興基盤総合整備事業 原町東地区を担当していただいております。You Tube「復興の浜へ〜津波被災地のいま〜」に出演していただきました。

彌田雄太さんの答え

Q1：被災地や福島県に来て見た感想・印象はいかがでしたか？

初めて来たときの街の状況や人々の暮らしを見た限りでは、自分が想像していたよりも復興が進んでいると感じました。しかし、原発事故の影響による立入制限がある地域で、震災当時の爪痕が色濃く残る街を目にしたときは、その場所だけ時間が止まっているようで衝撃を受けました。

ただ、未曾有の災害に遭ったにもかかわらず、地域住民全ての方が明るく、とても親切で、地域に愛着を持ちながら、一丸となって復興に取り組んでいることに驚きました。

Q2：福島県で生活してみて、どのように感じましたか？

仕事面では、慣れない仕事に戸惑いもありますが、プロパー職員のバックアップもあり、何とか仕事らしきものを熟せている、と云う感があります。また、職場の特徴である全国から派遣されて来ている職員から、色々な情報や刺激を受け、今後の仕事へフィードバックできるのではないかと感じています。

私生活面では、放射能どこ吹く風で、福島県はいたる所に歴史・文化に根ざしたイベントが思いのほか多く、週末は観光がてら趣味の写真を撮り歩く日々を楽しんでいます。

Q3：最後に、全国へメッセージをお願いいたします。

全国の皆さん、福耕支援隊の仲間入りをするチャンスがあれば迷わず手を上げるべきです。普段の生活や仕事では経験出来ないようなことが多々あります。全国各地から派遣されて来ている職員と情報交換を行ったり、ときには刺激を受けたりと、毎日が色々な意味で新鮮です。また、今後の人生や仕事において、こちらで培った経験や人脈は、決して損はしないと思います。

最後に一言。福島に来れば平日・休日ともに、充実した時間を過ごせることを私が保証します。

野上康則さんの答え

九州に住んでいるとほとんど震災関係のニュースは届かず、たまに全国ニュースで見えるくらいで復旧復興がどうなっているのか分からないのですが、実際現地に来てみるとまだまだこれからと実感させられます。ただ、平成26年度に来たときより小さな子供をよく見るようになり、少しずつ生活の再建が進んでいるのかなと実感します。

冬は確かに九州より寒いですが、内陸の山間地ぐらいいかな、思ったより過ごしやすい気候です。

仕事面では、慣れない事に戸惑いを感じながらもプロパー職員のバックアップもあり日々何とか行っています。全国の多くの仲間は財産ですので今後何かあった際には協力願います。



若いうちに福島へ来る機会があれば是非自分の目で確かめて下さい！



大分県 福島での思い出アルバム



大分の焼酎を畠副知事に勧める
(2016.12.17)



福島県PR動画にも出演しました
(2016.10.6)



地元住民との打合せ
(2016.9.28)

「ありがとう」掲示板 <広野町>

東日本大震災、そして福島県での原子力災害発生から6年が経とうとしています。

その間、広野町では農林水産省の各地方近畿農政局等から職員の方の派遣を受け、被災を受けた農地の復旧等に大変なご尽力をいただきました。特に近畿農政局からは現在も引き続き派遣をいただき、広野町の復興業務に取り組んでいただいております。

慣れない環境での業務ではあると思いますが、豊富な業務知識と経験を基にしたその仕事ぶりには頭が下がる思いです。おかげさまで広野町全体を見ましても、公設の商業施設「ひろのテラス」の開設、広野センタービルの完成、サマーフェスティバルの復活や国際フォーラムの開催など多方面から多くの方々の支援を受けながら着実に復興への歩みを進めているところです。しかし、広野町が真の復興を成し遂げるにはこれから先もまだ多くの事柄に取り組んでいかなければならないと考えています。引き続きご支援をいただければ幸いです。

最後になりますが復興への長い道のりの中、共に歩んでいただいた支援職員の方々に対し改めて深く感謝し、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



堤防の復旧とほ場整備（折木地区高萩、六反田）

藤沼ダム（須賀川市）試験湛水開始！

復旧工事を進めている福島県中通り地方に位置する須賀川市の藤沼ダムは、築堤工事が完了し、実際に貯水してダム及び貯水池周辺の安全性を確認する「試験湛水」を平成29年1月18日から開始しました。

降水量が平年並みであれば、3月末には満水となる予定で、その後は今春の作付けにあわせ、4月末から市内837haの水田に用水の供給を再開できる見込みです。



3.11 本堤



復旧工事の様子（本堤）



湛水安全祈願式の様子



3.11 副堤

「藤沼湖」ダム諸元				
区分	本堤	副堤		
型式	中心遮水型アースフィルダム		堤頂標高	EL=417.40m
堤高	31.4m(18.5m)	18.0m(10.5m)	常時満水位	EL=413.80m
堤長	149.2m(133.2m)	86.8m(72.5m)	貯水量	1,500,000m ³
堤頂幅	8.00m(6.50m)	7.00m(5.5m)	受益地	須賀川市
受益面積	A=837ha			
備考	※()書きは復旧前の諸元			

福島県 福耕支援隊

全国からおいでいただいている福耕支援隊の方々に支えられ、震災から6年が経過しようとしています。今年度は、避難指示区域が解除となった南相馬市小高区で、農山村地域復興基盤総合整備事業（農地整備事業）飯崎地区が着工しました。また、広野町では防災緑地の整備や、県道広野小高線と農地海岸「浅見川地区」の復旧工事が完成し、津波に対する多重防衛施設として機能し始めました。

相双管内では、農地海岸及び排水機場の復旧が先行し高い進捗率となっています。さらに津波被災農地の復旧と併せたほ場整備事業などでは、原町東地区ほか11地区約890haの区画整理が完了し、さらに13地区で計画策定中であり、営農再開に大きな弾みになると期待しております。

業務面では、工事の入札不調が多く、支援の成果が思うように形にならず、支援頂いている方々に対し大変申し訳ない気持ちでいっぱいな時期もありました。今では、債務工事の現場完了へ向けた変更設計、県営災の局重変協議、地元対応などにおいて力を発揮して頂いております。

これまでの福耕支援隊の活躍により広野町、檜葉町及び相馬市の農地農業用施設災害復旧は、ほぼ完了となりました。

平成29年は複数の町村で避難指示区域が解除される見通しとなっており、更に復旧・復興の加速化が求められております。今後は、営農再開に向け、一段と厳しい状況が想定されます。引き続き全国の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

相双農林事務所 農村整備部長 大久保 進一

これまでの福耕支援隊の支援体制（配置人数）

区分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		
	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	
派遣元	農林水産省	8局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	8局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	7局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	8局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄
	都道府県	27道府県	北海道、青森、栃木、群馬、新潟、静岡、富山、石川、福井、長野、山梨、岐阜、滋賀、愛知、京都、大阪、鳥根、岡山、広島、山口、愛媛、香川、福岡、長崎、大分、宮崎、沖縄	16道県	北海道、青森、秋田、栃木、群馬、埼玉、神奈川、新潟、山梨、長野、滋賀、山口、愛媛、福岡、大分、沖縄	12道県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、山梨、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄
	市町村			3市	新潟県新発田市 富山県富山市 富山県南砺市	6市	新潟県新発田市 富山県富山市 新潟県小千谷市 富山県南砺市 長崎県諫早市	4市	新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	4市	新潟県新発田市 福井県大野市 岡山県総社市 長崎県諫早市	3市	福井県大野市 岡山県総社市 長崎県諫早市
派遣先	県	2事務所	県中農林事務所 相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所
	市町村	5市町	須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町	7市町	須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町、檜葉町、浪江町	7市町	須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町、檜葉町、浪江町	6市町	相馬市、南相馬市、広野町、新地町、檜葉町、浪江町	6市町	相馬市、南相馬市、広野町、新地町、檜葉町、浪江町	7市町	相馬市、南相馬市、広野町、新地町、檜葉町、浪江町、川内村
人数	294名		353名		307名		258名		241名				
延べ人数	3,827人・日		10,079人・日		10,887人・日		11,292人・日		10,614人・日				

東北地方太平洋沖地震災害 災害復旧執行状況（相双農林事務所）

H29. 2. 24

		計画変更後事業費		着手状況				完了箇所				
		箇所数 (ヶ所)	事業費 (千円)	箇所数 (ヶ所)	進度 %	事業費 (千円)	進度 %	箇所数 (ヶ所)	進度 %	事業費 (千円)	進度 %	
農村整備部	農工事業	海岸災害復旧事業	30	28,895,566	30	100.0%	25,754,017	89.1%	11	36.7%	20,313,405	70.3%
		農業用施設	45	14,160,961	43	95.6%	13,806,311	97.5%	35	77.8%	12,343,420	87.2%
		農地(区画整理)	114	19,126,718	86	75.4%	3,558,514	18.6%			123,625	0.6%
		農業用施設(区画整理)	140	3,263,358	17	12.1%	232,232	7.1%			30,906	0.9%
		県 営 計	329	65,446,603	176	53.5%	43,351,074	66.2%	46	14.0%	32,811,356	50.1%
	市町村工事	農地	270	15,672,391	207	76.7%	4,405,416	28.1%	154	57.0%	1,848,515	11.8%
		農地(除塩事業を除く)	196	15,430,340	146	74.5%	4,269,823	27.7%	96	49.0%	1,713,341	11.1%
		除塩事業	74	242,051	61	82.4%	135,593	56.0%	58	78.4%	135,174	55.8%
		農業用施設	469	5,361,635	352	75.1%	3,376,912	63.0%	282	60.1%	2,331,054	43.5%
		農業集落排水施設	18	1,947,408	17	94.4%	1,836,540	94.3%	14	77.8%	1,346,083	69.1%
団 体 営 計	757	22,981,434	576	76.1%	9,618,868	41.9%	450	59.4%	5,525,652	24.0%		
計	合計	1,086	88,428,037	752	69.2%	52,969,942	59.9%	496	45.7%	38,337,008	43.4%	

農業農村整備 復旧・復興のあゆみフォト



埴浜排水機場（新地町）

金ヶ森ため池（浪江町）

浅見川海岸（広野町）

福耕支援隊フォトレポート～業務でもプライベートでも復興支援～



4月に本庁挨拶の様子



段階確認をしています



現場で業者の方と打合せ



沖縄パイナップルが届きました



島副知事との懇談会



群馬県へ親睦会旅行



福島に生まれて、福島で育って、福島で働いて、福島で結婚して、
福島で子供を産んで、福島で子どもを育てて、福島で孫を見て、
福島でひ孫を見て、福島で最期を過ごす。

それが私の“夢”なのです。

あなたが福島を大好きになれば幸せです。

〈出典：第35回全国高等学校総合文化祭 構成劇でのメッセージ〉



全国農村振興技術連盟会員の皆様や台湾農田水利会連合会から義援金をはじめ、多大なるご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

発行元：福島県農村振興技術連盟（編集 福島県農村計画課）

電話：024-521-7403 FAX：024-521-7545